

ホップ・ステップ・ジャンプ!



3年生を対象に、薬物乱用防止教室を行いました!

11月19日(木)6限目に、白山警察署の方を講師にお招きし、薬物乱用防止教室を実施しました。薬物依存の怖さはもちろんのこと、石川県内の状況や誘いを断る方法など、これからの自分たちにとって役立つ話題ばかりで、学びの多い時間となりました。

【生徒の振り返り】より

警察の方のお話を聞いて、薬物がとても危険なものだということを改めて学びました。薬物は一度使っただけでなかなかやめられなくなって、幻覚が見えたりすることもあると知って、こわいなと思いました。

また、お酒とタバコは薬物への入口だというのがとても印象に残ったので、大人になるまではやめようと思いました。もし誘われたら、勇気を持って断れるようになりたいです。

改めて薬物、未成年の飲酒、タバコは危険だなと思った。薬物は大麻やコカインなどだけでなく、処方される薬や薬局で売っている薬も薬物に含まれることに驚いた。間違った使い方をすると体に害がある。最悪の場合、死に至ることもあるので本当に怖い。生活の中で、できるだけ関わりたいくないことだと思う。自分の将来を棒にふるためにも、薬物などには絶対関わらず、未成年の飲酒、タバコも絶対にしないでおこうと思った。

薬物については3年生の保健の授業で少し勉強していたけど、今日の講座ではより詳しく習うことができました。私たちが普段、風邪薬として飲んでいるものも、使用の仕方を間違えば、薬物乱用になりかねないし、私たちと同じ10代の人が1番多く薬物を使っていることに驚きました。

薬物乱用防止教室を終えて、薬物は本当に危険だと思ったし、使わないようにしようと思った。薬物を手にするきっかけは人それぞれだと思うが、僕はストレスが原因で薬物に手をそめるのが多いのではないかなと思った。だから日頃からストレスのかからないような生活を送りたいと思った。

今回の話を聞いて、石川県でもたくさん薬物乱用をした人がいることを知り、思っていたよりも身近に違法な薬物があることにとても驚きました。違法薬物を使うと一生続けていきたくなったり、体の臓器がどんどん弱ったりするので、もし誘われても、今日実際にやってくれた東川さんや藤本さんのようにきっぱり断り、誘う側の人もやめさせられるような勇気ある行動をとっていきたいです。

薬物の種類によって刑罰が変わるという仕組みを初めて知った。



受験勉強どうですか？

先日、第1回総合テストの結果が返ってきました。皆さんは、結果をどのように受けとめたでしょうか。来月には、12月7日(月)第2回総合テスト、11日(金)後期中間テスト、18日(金)・21日(月)・22日(火)三者懇談会と、いよいよ中学校卒業後の自分の進路を決める時期が差し迫ってきました。目標を定め、強い気持ちで邁進するのみです。1日1日の積み重ねを大切に、寸暇を惜しんで勉強に励みましょう。

お話をひとつ紹介！

column

人物探訪

上杉治憲(のちの鷹山)が十五歳で藩主となった米沢藩は、財政が極めて厳しい状況にありました。治憲は綿服の着用、一汁一菜の食事など率先して儉約に努めました。また、田畑を増やすため自らくわをもつて働き、漆や桑などの特産品増産も奨励しました。藩主として、家法にのっとり学問と武術に励むこと、民の父母となるべく努めること、質素儉約を行うこと、言ったことは必ず行い、賞罰を正しく行うことなどを誓っています。また、儒学者の細井平洲を招き、藩の学校で人材の育成にも力を入れました。

財政立て直しへの道は、決して平坦ではありませんでした。天明の飢饉が起るなどの悪条件が重なり、懸命の努力にも関わらず、藩の改革はうまくいきませんでした。三十代で藩主の座を退きますが、新しい藩主の下で財政はさらに悪化し、治憲は、再び藩の立て直しに取り組むことになりました。

もはや失敗は許されないと決意で改革に取り組み、政治への信頼を取り戻さなければならぬと考えた治憲は、藩の財政状況を公開し、広く農民や町人にも改革への意見を求めました。治憲の決意は、次の言葉にも表れています。「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」

長年の努力が実り、治憲が亡くなる頃には、藩の借金が多くを返すことができました。若き日の志を忘れず、家臣領民に愛情をもつて接し、藩の財政を立て直した治憲は、江戸時代屈指の名君と言われています。

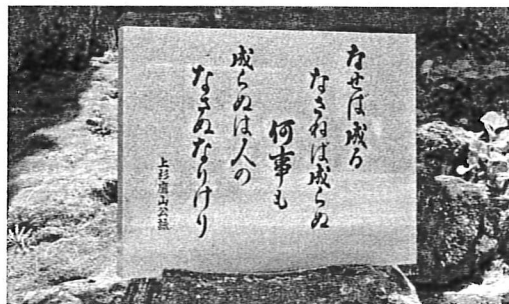
第三十五代アメリカ合衆国大統領のジョン・F・ケネディは、尊敬する日本人政治家を問われ、上杉鷹山の名を挙げました。



なせば成る
なさねば成らぬ 何事も
成らぬは人の なさぬなりけり

上杉鷹山

- 江戸時代の大名。米沢藩の第9代藩主。第8代重定の養子となり、15歳で藩主となった。大侯約令を発するなどして、藩政改革に当たるとともに、織物業を振興し、養蚕や絹織物業を発展させた。
- 30代で隠居し、第10代藩主治広、第11代藩主斉定を支える。50歳を過ぎてから鷹山を名乗る。



上杉神社にある上杉鷹山の歌碑

上杉鷹山(うえすぎようざん) 1751~1822